

希望の家

高本 智恵子

私たちは、築三十年の戸建住宅に住んでいます。昨今、我が家は、あちらこちらに傷みが見られるようになり、今後、リフォームか、建て替えか、考える時期になっていました。

昨年、手始めとして、一番傷みの酷かった台所のリフォームを実施しました。一見、憧れのシステムキッチンにはなりましたが、リフォーム中、台所の出窓の木部の腐食がわかり、私たちは、大変なショックを受けました。

我が家の台所は、リビング一体ではなく北西側の独立した部屋になっており、夏は西日を直接受け、茹だるような暑さ、冬はまるで外にいるような寒さで、まさに過酷な状況の中で食事を作っていることになります。また、リビングは外出先から帰宅した際は、冷え切った部屋がある程度暖まるまで、コートを脱ぐことができません。年々、寒さも増してきているようにも感じています。また、お風呂場やトイレに行く際も、外界に負けぬ寒さのため、覚悟を決めてから行くことになります。寝室は、以前は真夏でも窓を開けていれば心地よく就寝できていましたが、ここ二、三年はエアコンを入れなければ眠れない日々が続き、エアコンが苦手な私たちは、徐々に体調を崩すようになっていました。私たちには、家人と同様に、築三十年の家が傷みで悲鳴を上げているように感じます。このような状況で、大規模な建替えの必要性を真剣に考えるようになったのです。

そんな矢先のこと、私の友人・知人が、言えの建替えをし、「冬は暖かく、とても住みやすくなった」との話を、立て続けに聞く機会に恵まれました。皆、建替え前とは人が変わったように明るい声でした。新築の家は、人の気持ちまで明るくする効果があるのだと、その時、確信しました。しかし、皆に「夏の暑さはどうか」と聞くと、意外にも、今までとは、一、二度は暑いとのことでした。私たちは驚きました。あくまで私たち自信の感想になりますが、建替えをして、冬が暖かくなったことで、夏の暑さを我慢できているのではないかと感じました。私たちには、これ以上、夏場に部屋が暑くなるのは納得のいかないことなのです。

このことから「夏は涼しく、冬は暖かい」ことが、私たちが家に求めるひとつの指針となっていきました。

そしていざ、モデルハウスの見学、そして建替えの説明を受けてみようと思い、数件のモデルハウスや分譲中の新築物件を見て回ることにしました。どちらの建物も、新築の木の良い香り、内装も素晴らしく、私たちは毎回心躍るような気持ちでした。我が家の設計の参考にもなりました。時期がちょうど、夏場であったこともあり、夏の部屋の暑さを体感できる絶好の機会でもありました。しかし、やはりどちらの建物にしてみても、二階に昇ると、温度が高いのが気になるのです。それも、今の我が家よりも暑いと感じるのです。思い切ってモデルハウスの業者の方に対策を聞いてみると、「屋根裏に熱が籠るのは避けられず、その熱が部屋へ降りてこないように、二階の各部屋と廊下の天井に換気扇を取り付けることで改善可能です」との説明を受けました。しかしそれは、なんだかその場しのぎのような対策に感じたため、自分たちの中で、興味が徐々に薄れていくのが分かりました。望むような環境が手に入らないのであれば、建替えをする意味はあるのか、私たちは一つの壁に直面したのです。

それでも諦めきれない私たちは「夏は涼しく、冬は暖かい」を胸に、日々インターネットで検索を続けていました。そんなある日、私たちはある躯体工事の画面に目が釘付けになりました。「こんな素晴らしい技術を持った大工さんに家を建ててもらいたい！」瞬時に思いました。その思いのまま、私たちは地元の工務店を検索、すぐに小川工務店様にたどり着き、飛び込みでモデルハウスの見学をさせていただきました。私たちの望みが叶うのか、最後の賭けのような、藁をもすがるような気持ちでした。

そして、そのときが私たちの「そらどま」の家との初対面となったのです。

「そらどま」の家は、木材をふんだんに使用しており、視覚的にも、また私たちが大事にしたい感覚的にも違和感がなく、これまで見てきた物件と比べて異彩を放っているように感じられ、大変な興味をそそられました。説明を聞くまでもなく、私たちの体が、この家をもたらす環境を喜んでるように感じました。

「呼吸する家」が一番だということ、「透湿、調湿、通気」の大切さ、工務店の社長から語られる言葉の数々に、私たちのなかで「家」というものに対して、今までと全く違った視点を持つことになり、また、沢山の教をいただくことになりました。

結露は単なる表面上の問題と思っていましたが、この状態を長期間放置していると、壁内が腐敗し、建物だけでなく人体にも悪い影響があることを知りました。また、「そらどま」の家には、「呼吸する家」にするために、現在よく建てられている高气密高断熱住宅にはない工夫が沢山ありました。

夏の屋根からの直射日光（熱）を室内に入れず、冬は室内の暖かい空気を外に逃がさない為に、アルミの遮熱シートを使用し、断熱材としてウッドファイバーを活用することで吸放湿性能をはかり、結露、高湿化をなくして室内の腐敗やカビ、蟻害を防ぎ、エアコンの力を借りない副射式冷暖房システムを導入することで、床、壁、天井の温度が同じになり一年中温度差のない住宅になるということが分かりました。

太陽の恵みを受け、動力を使わず、素材や設計上の工夫で自然の温度を巧みに利用しているのです。

私たちが望んできた「夏は涼しく、冬は暖かい」快適な生活環境が手に入る、建替えができる期待が高まり、夢は膨らんでいくばかりです。

私たちの住んでいる地域は、緑にも恵まれ、喉かな風景もあり、自然環境に恵まれています。私たちの「そらどま」の家は、この環境もマッチすることでしょう。

1階には、ロードが趣味の主人のために、自転車がお洒落におさまる場所を屋内につくり、サイクリングを思う存分楽しんでほしい。よく遊びに来てくれる孫には、温度差のない、また、広く気持ちの良いリビングで元気にはしゃぎまわってほしい。二階には芝生を植えることのできるスカイプロムナードで、娘や友人や夫婦で、時にバーベキューやティータイムなどを過ごしたい。二階に芝生があることで、屋根の遮熱にもなるそうです。遮熱しながら私たちには贅沢な場と時間をもたらす、まさに一石二鳥となる素晴らしい設計なのです。

今を楽しく過ごす、また心地良さを与えてくれる「そらどま」の家は、きっと私たちの夢を実現させてくれると信じています。

沢山のアイデアを提供して下さった丸谷先生、栄住産業様、「そらどま」を取り入れ、百年住み続けることが可能な家を設計、そして建築していただく小川工務店様に出会えたことを、感謝しています。

家を通して、沢山の方々に巡り合えたことは、私たちのこれからの大きな財産になることでしょう。今後もどうぞよろしくお願ひ致します。